

2006 平成18年

ふいあい 放水路

11月号 vol.152

Izumo Office of River Chugoku Regional Development Bureau



特集

斐伊川放水路 “開削部”と周辺の史跡を訪ねる

狛犬
斐伊川放水路工事現場近くに位置する塩冶神社。階段を登るとなんと凍々しい狛犬が神社を守っています。

斐伊川放水路

“開削部”と周辺の史跡を訪ねる

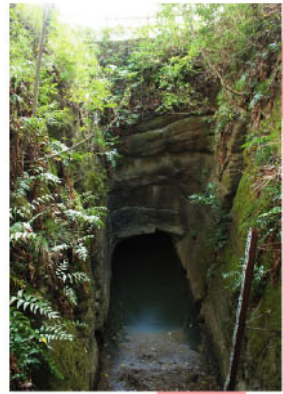
秋晴れのある日、斐伊川放水路の開削部と周辺の史跡を訪ねてみました。古代から現代まで、この地域の文化・歴史に触れることができました。その中で発見したスポットを今月は紹介します。

⑦岩樋公園 (手づくり郷土賞受賞)

来原岩樋は、斐伊川の水を高瀬川と間府川に落とす取水口として1700年に完成しました。現在では、周辺が公園として整備され、展望広場からは斐伊川の流れを眺望することができます。

“岩樋守”って何?

岩樋の管理をする人のことです。岩樋の完成とともに「岩樋守」として移りすんだ本田家によって約300年にわたり、水門操作が行われていました。なんと現在10代目だそうです。



孫の代に託された岩樋計画。高瀬川が完成した当初の取水施設は木製でした。大橋七兵衛は、より頑丈な岩樋を考えました。しかし着工前に死去し、二代目に託されますが、二代目も亡くなり、工事は三代目に託されます。ようやく三代目七兵衛により岩樋は完成しました。

⑥塩冶神社

大国主命の御孫神である塩冶毘古命とその妻神が主祭神として祀られています。創建は定かではありませんが、地名として「塩冶」の字が用いられたのは726年だそうです。



本殿は、出雲大社で有名な「大社造り」です。



境内には、稻荷神社、荒神社、天満宮も... さらに、鎌倉・南北朝時代の武将塩冶判官高貞公も祀られています。

⑤三谷神社 (西谷9号墳)

紀州熊野の地で祀られていたお社が南北朝、戦国時代に出雲に奉還されて三谷山上に祀られていました。ところが昭和36年の降雨で境内が倒壊し、現在の丘に遷されました。



丘は四隅突出型墳丘墓だった!? 誰もが普通の丘だと思って神社を遷したのですが、後の考古学調査により、この丘は西谷墳墓群の9号墳、しかも島根県で最大の四隅突出型墳丘墓であることがわかりました。



④止屋の淵伝承地



「日本書紀」「出雲風土記」に登場する「やむやの池」の淵の跡といわれている場所があります。



⑧はでば



来原岩樋、高瀬川、間府川の完成により生まれた水田では、今でも秋の風物詩、はでばが見られます。はでばは地域によって呼び名も組み方も異なり、「はせ」「はぜ」などとも呼ばれます。

⑨一の谷公園



テニスコート、弓道場、アスレッチなどの楽しい施設がいっぱいあります。展望台からは、市内が360°望めます。



⑩斐伊川放水路開削部工事現場



間府大橋新設工事が進行中。



B谷へ残土を盛る工事が進行中。



新設した大井谷橋からは、開削部の掘削工事が進んでいる様子を見ることができます。

斐伊川放水路も、歴史に残る大工事だよ。



②上塩冶築山古墳 ③地藏山古墳



古墳時代後期の横穴式石室。2つの古墳は、広域を統括する政治的支配者の墓とみられています。現在では、住宅地の中にひっそりとその姿を見ることができます。地藏山古墳の石室は、壁、天井とも一枚の切石で作られています。現在、石棺内には地藏尊が祀られています。



①西谷墳墓群 (国指定史跡)

弥生時代後期～古墳時代中期にかけてつくられた総数32基の墳墓群。6基は「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれる弥生時代後期の山陰地方独特の墳丘墓です。突出部を含めると50mを超える大きさのものもあり、弥生墳丘墓としては国内でも最大級。



四隅が突出しているのはなぜ!? 明確な理由ははっきりしていませんが、頂上に登るための通路だったのではないかとされています。

弥生時代から現代まで時代をおって紹介していきます!



お知らせ

しまね建設技術展 2006 を開催します

今年で8回目を迎える「しまね建設技術展」を、12月8日(金)、9日(土)の両日、出雲市健康福祉公園「出雲ドーム」にて開催します。

会場では「安全な暮らしを目指して」しまねの防災」のテーマのもと、行政機関や民間企業、団体による展示や、道の駅の特産品販売、楽しいステージイベントなどを用意しています。ぜひお誘い合わせの上、来場下さい。



しまね建設技術展2004(出雲ドーム)の様子



シリーズ

土木現場に行く

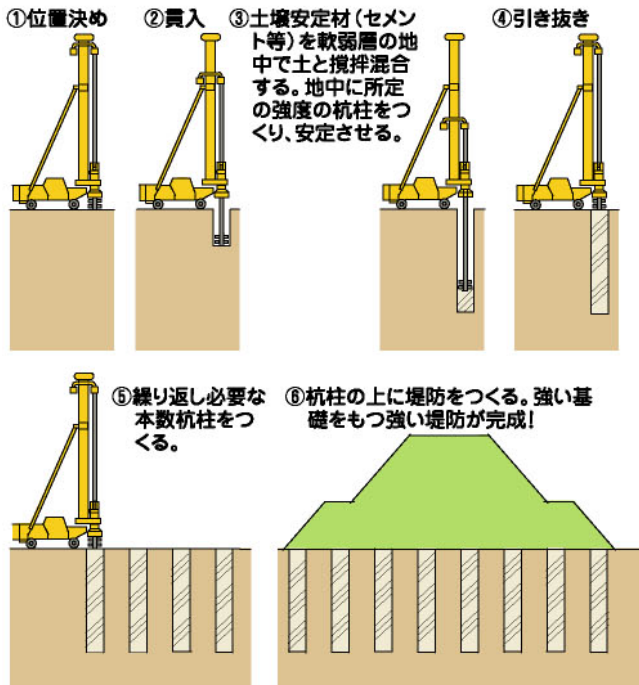
放水路工事現場で見かける、このほそながい機械は何をしているのでしょうか？



軟らかい地面を丈夫にするすこい機械なんです！

地盤が悪いところでは、その上に堤防や道路などを造ると、地盤の破壊や沈下を生じることがあります。そのため、地盤を改良するために、様々な工法が開発されています。ここに紹介する機械は、軟弱地盤改良工法の一つである「深層混合処理工法」を行うための機械です。

深層混合処理工法の施工手順



妙見橋の3世代の橋台が並ぶ

妙見橋上流の旧堤防、護岸の撤去工事を行っていたところ、旧妙見橋の更に前の時代の妙見橋の橋台が姿を現しました。これは旧橋が昭和四十二年設置され、役割を終えた橋台です。



工事発注情報

- 斐伊川放水路第2管理作業 H18.10.6~H19.3.31 山口建設(株)
- 斐伊川放水路元坪外高水護岸工事 H18.10.19~H19.2.28 (株)フクダ



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5-1 TEL(0853)21-1850 FAX(0853)22-7829

E-mail:izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.izumokasen-mlit.go.jp/>